

当社が協賛する第18回神戸震災復興フリーイベント「ONE HEART～繋げよう未来へ～」関連記事が

神戸新聞に掲載されました。

掲載日：2022年1月16日

掲載紙：神戸新聞

33 わがまち 2022年(令和4年)1月16日 日曜日 神戸新聞

長田区 元阪神タイガース投手の仲田幸司さん(57)＝西宮市＝が17日、大正筋商店街(長田区二葉町)で開かれる阪神・淡路大震災の復興イベント「ONE HEART(ワン・ハート)」に参加する。同じ元阪神選手で2016年に亡くなった、長田区出身の安達智次郎さんの遺志を継ぎ、安達さんが長年尽力してきた復興イベントへの参加を決めた。トークショーで、在りし日の思い出を語る。(大橋 稔太郎)

元阪神投手・仲田さん あす復興イベントに参加

「後は俺にまかしとけ」

仲田さんは当初、同じ左腕としてライバル視していたが、低姿勢で謙虚な安達さんを見て「あ、こひもばす様子を見て」「あ、こひもばす様子を見て」と、よく冗談を言ったという。震災で2人とも被災し支え合った縁もあり、引退した後も交流は続いた。

6年前急逝の後輩 安達さんの遺志継ぐ

「被災したふるさとを盛り上げたい」と草野球チームを結成し、地元商店街の復興イベントにも積極的に参加していた安達さん。生前の姿を思い出し、仲田さんは「安達が愛した長田の出しがある。」

仲田さんは当初、同じ左腕としてライバル視していたが、低姿勢で謙虚な安達さんを見て「あ、こひもばす様子を見て」「あ、こひもばす様子を見て」と、よく冗談を言ったという。震災で2人とも被災し支え合った縁もあり、引退した後も交流は続いた。

「被災したふるさとを盛り上げたい」と草野球チームを結成し、地元商店街の復興イベントにも積極的に参加していた安達さん。生前の姿を思い出し、仲田さんは「安達が愛した長田の出しがある。」

「野球人生では2人とも天国と地獄を味わい、震災をともに乗り越えた。だからこそ、被災者には、1歩踏み出す勇気を持って笑顔で過してほしいと伝えたい」と力を込める。復興イベントには来年以降も参加し続ける予定といい、「安達、後は俺にまかしとけ」

「力になりたい」と思いついた。

「野球人生では2人とも天国と地獄を味わい、震災をともに乗り越えた。だからこそ、被災者には、1歩踏み出す勇気を持って笑顔で過してほしいと伝えたい」と力を込める。復興イベントには来年以降も参加し続ける予定といい、「安達、後は俺にまかしとけ」

「力になりたい」と思いついた。



阪神・淡路大震災で多くの店舗が焼失した大正筋商店街で「1歩踏み出す勇気を持とう」と語る仲田幸司さん＝いずれも長田区二葉町



2008年に西神戸センター街で開かれた震災復興イベントで写真に納まる仲田幸司さん(左)と安達智次郎さん(西神戸センター街提供)